

令和3年度
東京都教育委員会 持続可能な社会づくりに向けた教育推進校
研究報告書

自分事として捉え、 すすんで解決する児童の育成

～SDGsを達成するためのESDを踏まえた授業づくりを通して～



令和4年2月10日(木)
豊島区立仰高小学校

「共に明日を創る」SDGsの実践

校長 新井 裕

仰高小学校の校訓は「豊かに学び美しい心と才能をみがき共に明日を創って
こう 進め 登れ 遠く 高く」です。本校に集う全員がこの言葉を心に刻み教育活動を進めています。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症を始め、地球規模の課題が生じるなど、予測困難な世界を生きていかなければなりません。2030年までにはSDGsの取組が、そして2050年までには脱炭素社会の実現を図る取組が求められています。これからの社会を私たちよりも更に長く生き抜く子供たちにはこれらの課題に立ち向かう力が必要であり、自分事として解決しようとする知恵が求められます。

本校は今年度、東京都教育委員会の研究推進校として、社会科・総合的な学習の時間を中心にESDの視点に立った授業改善を通し、児童が「自分事」として諸事象を捉え、すすんで解決しようとする取組を進めて参りました。当初SDGsの意味すらも分からなかった児童も、それぞれの授業実践から自分が取り組むべき課題を意識し、その解決への方途を見付けようとするまでに成長しています。まさに校訓である「共に明日を創る」道なりに、新たな一步を踏み出しました。本校の取組を御覧いただき御示唆を賜れば幸甚でございます。

結びに、これまで御指導を賜りました東京都教育庁指導部を始め豊島区・豊島区教育委員会の諸先生方、そして懇切丁寧に全学年の授業研究を支えていただきました元聖徳大学大学院教職研究科 教授 廣嶋 憲一郎先生、麗澤大学大学院学校教育研究科 道徳専攻 准教授 鈴木 明雄先生に厚く御礼を申し上げます。



1 研究主題

Gyoko's Sustainable Development Goals

自分事として捉え、すすんで解決する児童の育成
～SDGsを達成するためのESDを踏まえた授業づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

現在、社会は大きく急速に変化し、予測困難な時代を迎えている。また、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する様々な問題が山積している。2015年の国連サミットでは、加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、SDGs（持続可能な開発目標）が記載され、地球上の誰一人取り残さない世界の実現を誓っている。

これからの社会で活躍する子供たちには、多様性を原動力としながら、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。そのため、学校教育においては、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、ESD（持続可能な開発のための教育）は、学習指導要領の基盤の理念となっている。

こうした状況の下、子供たちが、未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育むためには、「社会に開かれた教育課程」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の実現、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

本校の児童は、令和3年4月に実施した意識調査の結果において、「SDGsを達成するために、身近なことで自分にできることを考えて取り組んでいる」と79%が回答している。また、6月に実施した豊島区学力に関する調査の結果では、「自分の住んでいる地域が好きである」と回答した児童が85%いた。一方で、「自分の住んでいる地域や社会をよくするために取り組んでいる」と回答した児童は58%、「学校や地域の図書館で本を読んだり、調べたりする」と回答した児童は59%となっている。このことから、課題を自分事として捉えることや、主体的に学習に取り組んだり、課題を解決しようとしたりすることが課題としてあげられる。

そこで、各教科等の学習を通してESDの考えに触れ、資質・能力を磨き、学校教育全体で実践することや児童にSDGsの意識化を図ることが求められる。そのため、身の回りの諸問題を解決するための判断力や実践力を育成することで、自他を尊ぶ態度を育むことや、児童が課題を自分事として捉え、主体的に学べる問題解決的な学習を実現するためのカリキュラム・マネジメントが必要と考え、本研究主題を設定した。



3 研究の構想

研究構想図

【国・都・区の施策】

- 学習指導要領
- 持続可能な開発目標 (SDGs) の採択
- 持続可能な開発のための教育 (ESD) の推進
- SDGs未来都市の選定
- 自治体SDGsモデル事業の選定
- 豊島区教育ビジョン2019の推進

【校訓・経営方針】

豊かに学び
美しい心と才能をみがき
共に明日を創っていこう
進め 登れ 遠く 高く
豊島区コミュニティスクール
モデル校として
GSDGsの取組を推進する学校

【児童の実態】

- 友達の考えを認めながら話し合うことができる。
- 解決方法を見いだすことができる。
- 課題を自分事として捉えきれていない。
- 対話を通して学びを深めることが不十分である。

研究主題

Gyoko's Sustainable Development Goals

自分事として捉え、すすんで解決する児童の育成

～SDGsを達成するためのESDを踏まえた授業づくりを通して～

主題設定の理由

学習指導要領の理念に基づき、各教科等において、持続可能な社会の創り手の育成が必要である。また、身の回りの諸問題を解決するための判断力や実践力を育成することで、自他を尊ぶ態度を育むことや、児童が課題を自分事として捉え、主体的に学ぶことができる問題解決的な学習を実現するためのカリキュラム・マネジメントが必要であると考え、本研究主題を設定した。

目指す児童像

【低学年】

身の回りにある問題に気づき、自分事として捉え、よりよくしようと周囲と協力する子

【中学年】

地域にある問題に気づき、自分事として捉え、解決しようとする子

【高学年】

現代社会における諸問題を自分事として捉え、様々な立場に立って解決策を考えて実践する子

研究仮説

身の回りにある現代社会の諸問題について、身近な資料やデータを基に問題解決型の授業を展開することによって、児童は問題を自分事として考え、解決するための判断力や実践しようとする態度を育成することができるだろう。

研究主題に迫るための手だて

1 主体的・対話的で深い学びの充実

- ICTの効果的な活用
- 課題解決学習の充実
- 知的好奇心を促す発問・教材の提示
- 考えを見つめ直す場面の設定
- 視点を明確にした対話場面の設定

2 カリキュラム・マネジメントの工夫

- 教科等横断的な学習過程の作成
- 教科以外の教育活動での取組
- 年間指導計画の見直し

3 社会に開かれた教育課程の実施

- 地域教材・地域資源の開発
- 外部人材の活用
- 校内の取組の発信

研究を充実させるための活動

1 目標の設定 (GSDGs)

- 体力向上
- 温かい心の醸成
- 学習環境の整備

2 学習環境づくり

- 玄関の空間を活用した広報
- 教室・廊下の掲示
- 学校図書館の活用促進

3 GSDGsの取組

- GSDGs夏のコンクールの実施
- GSDGsキャラクターの作成
- 緑のカーテン活動の実施
- ISS活動の実施

4 研究の方法

(1) 基礎研究と研究の方向性

講師による研修や資料を活用した研修を行い、SDGsの理念や17の目標の捉え方、ESDの基本的な考え方や育成する資質・能力、評価方法について学んだ。その上で、各項目において共通認識を図れるよう、学校としての捉え方を話し合い、全教職員で共有した。

また、SDGsの目標について学ぶことを目的とするのではなく、児童の学びや資質・能力の育成を通して、SDGsについて考えさせながら、ESDの資質・能力の育成ができるよう、各教科等及び、学校教育全体で取り組んできた。カリキュラム・マネジメントにより、新たな学習活動や教科等横断的な学びも行っているが、本校での従来の取組との関連性を考え、これまで行ってきた取組や学習においても、アプローチの仕方を見直し、自分事として捉えさせるような発問などを行うことで資質・能力の育成につなげられるようにした。

持続可能な社会づくりの構成概念 (例)

- 多様性 (いろいろある)
- 相互性 (関わりあっている)
- 有限性 (限りがある)
- 公平性 (一人一人大切に)
- 連携性 (力を合わせて)
- 責任制 (責任を持って)

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度 (例)

- 批判的に考える力
- 未来像を予測して計画を立てる力
- 多面的、総合的に考える力
- コミュニケーションを行う力
- 他者と協力する力
- つながりを尊重する態度
- 進んで参加する態度

※出典:国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究 (最終報告書)」

(2) 意識調査

4月と9月に、児童にSDGsやESDに関する意識調査を実施した。また、6月と9月には、東京都から提示された意識調査を第4学年以上で実施した。内容の分析や、変容を見取ることで、授業改善に生かした。

(3) 研究経過

実施月日	研究会名	内容
4月 8日	研究全体会①	講話 元聖徳大学大学院教職研究科 教授 廣嶋 憲一郎先生
4月 26日	研究全体会②	今年度の研究について
5月 14日	研究授業①	第6学年 総合的な学習の時間 「私たちのまち魅力UPプロジェクト」
6月 4日	研究授業②	第4学年 社会科 「ごみの処理と再利用」
7月 6日	研究授業③	第3学年 社会科 「わたしたちのすむまち」
9月 17日	研究授業④	第5学年 総合的な学習の時間 「食品ロスから取り組もう SDGsの輪」
10月 21日	研究授業⑤	第1学年 生活科 「生きものとなかよくなるよう」
11月 15日	研究授業⑥	第2学年 生活科 「町たんけん2 グループで出かけようー」

5 研究の内容

(1) 研究主題に迫るための手だて

研究主題「自分事として捉え、すすんで解決する児童の育成～SDGsを達成するためのESDを踏まえた授業づくりを通して～」に迫るために、「人にも自然にも優しい学校」をスローガンに掲げ、児童が自然とSDGsの目標を意識できる場を増やすことで、主体的に行動できるようにすることを旨とし、以下の手だてを講じた。



1 主体的・対話的で深い学びの充実

① ICTの効果的な活用

デジタル機器・タブレット端末は、興味・関心を高めるための教材提示や、自分の考えの整理、意見共有をする際に活用した。教材提示では、児童が短時間で学習意欲を引き立て、知的好奇心を高められるようにした。自分の考えを整理する場面では、児童が送られてきた写真やカードを端末上で試行錯誤しながら簡単に操作できるようにすることで、思考を整理しやすとした。意見共有の場面では、画面上で一度に全員の考えを比較・分析ができるため、話し合って考えを深める活動に時間を使うことができるようにした。



授業導入の工夫として、画面上に数字だけを提示する



タブレット端末でカードをグループ化し、考えを整理する



グループで話し合っまとめたものを画面上で確認する

② 課題解決学習の充実

児童が主体的に学習に取り組み、深い学びにつなげるためには、課題解決学習の充実が必要であると考えた。学校や地域の自然環境や地域人材を活用した学習活動を展開し、身近な課題を自分事として捉え、協働的に調べ、話し合い、まとめていくことで課題を解決することができるようにした。



緑のカーテンが日なたとどれくらい温度差があるのか、グループで調査活動を行う



グループで調べたことや分かったことを話し合い、タブレット端末を活用してまとめる



調べたことを基に、実際に見たり説明を聞いたりすることで、学びを深める

③ 知的好奇心を促す発問・教材の提示

児童が主体的に学習に取り組めるように、発問と教材の提示を工夫した。発問は、児童の反応をあらかじめ予想し、児童の思考を促すものを設定した。教材や資料は、発達の段階を考慮し、内容と数を精選したものをいつでもどこで提示するか、どのように提示するかを検討し、児童の興味・関心を高めるために効果的な活用を図った。また、学習履歴を教室内に掲示し、いつでも児童が活用できるようにした。

消滅可能性都市と言われた豊島区が住みたいまちに変わったのはなぜか、その理由について考えましょう。

自分たちが住んでいる豊島区について関心を高めて意欲的に活動するために工夫して発問する



これまで学習した2点の「商店街のすてき」を比較検討できるように工夫して掲示する



これまでの学習をいつでも振り返ることができるように教室内に学習内容を掲示する

④ 考えを見つめ直す場面の設定

対話場面(学び合い)の後、再度、自分で考える時間や、学習の最後に振り返りの時間を設定し、自分の考えや感じたことを整理することができるようにした。友達の考えや意見を聞くことで新しい発見や自分の考えがどのように広がったのか、また、自分の考えを更に深めたのか振り返ることで、深い学びにつなげた。



まず、自分の考えとその理由を明確にして書く



グループでの話し合いの後に、友達の考えと比べて気付いたことを書く



最後に学習の振り返りとして、自分の考えをまとめる

⑤ 視点を明確にした対話場面の設定

児童が話し合う価値を見いだせるような対話場面を設定することや、必要に応じて、思考ツールの活用を促した。考えの根拠に着目させた対話が可能となり、対話を活性化させ、学びを深められるようにした。



対話が行き詰まったグループには、教師がヒントを出したり問いかけをしたりする



写真や図を活用して整理し、自分の考えには、必ずその理由や根拠を伝える



考えをまとめるために必要な思考ツールを活用し、目的をもって対話活動をする

2 カリキュラム・マネジメントの工夫

●教科等横断的な学習過程の作成

各学年児童の発達の段階を考慮し、問題発見・解決能力の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、総合的な学習の時間における探究活動へとつなげるために、教科等横断的な学習過程を作成した。

時間	主な学習活動	評価規準
1 社会科	<ul style="list-style-type: none"> 豊島区が、23区唯一の消滅可能性都市から脱却したことを知り、理由を予想する。 4つの取組を柱に人口維持や地域活性化に取り組んでいることを理解する。 豊島区の取組は、区民の願いをもとに行われていることを理解し、それを実現するための、区役所や区議会の働きや取組を理解する。 税金の種類や働き、豊島区の収入と支出について、理解する。 学習したことを生かし、豊島区の未来について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ESDの視点に立った資質・能力 ◇批判的に考える力 ◇多面的、総合的に考える力 ◇コミュニケーションを行う力 ◇つながりを尊重する態度 ◇進んで参加する態度
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 豊島区がSDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業に選定されたことを知り、どのような取組をしているのかを考えて話し合う。 実際の取組を確かめる方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ウー① ◇批判的に考える力 ◇多面的、総合的に考える力 ◇コミュニケーションを行う力
2 3	<ul style="list-style-type: none"> SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について、予想したことをもとに調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> アー①、イー① ◇批判的に考える力 ◇多面的、総合的に考える力
4	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに、SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> アー② ◇コミュニケーションを行う力 ◇つながりを尊重する態度
6	<ul style="list-style-type: none"> 巣鴨のまちのよい点や課題について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> アー③ ◇批判的に考える力

第6学年 総合的な学習の時間 「私たちのまち魅力UPプロジェクト」

社会科「わたしたちの願いと政治のはたらき」の6時間の単元と、総合的な学習の時間17時間の単元の横断的な学習過程を構成し、持続可能でより魅力的なまちづくりするための探究的な活動に取り組んだ

●教科以外の教育活動での取組

各教科等の学習活動以外に校内の自然環境を豊かにし、植物や生き物が共生できる社会や環境改善に結び付くことができる取組を行った。また、これまでの学習や経験を基に、SDGsに関する物語や小説を募集し、全校児童の理解と意識を高めることができるよう、表彰式を行った。



夏のGSDGsコンクール表彰式では、童話作家の方から賞状が渡された



冬の花壇も緑で豊かにするために、花の輸運動として全学級花壇に苗植えをした



豊島区SDGsフェスティバルでは、本校の取組を区内に発信し、SDGsの共有を図った

●年間指導計画の見直し

児童や地域の実態を踏まえ、SDGsを意識付けさせるための単元を選定し、段階的・系統的な年間指導計画を作成した。その際、教科等横断的な学習過程を含む新たな学習内容の設定を行った。

SDGs	第6学年
1	SDGs未来都市の取組について調べる
2	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
3	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
4	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
5	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
6	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
7	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
8	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
9	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
10	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
11	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する
12	SDGs未来都市に選定された豊島区の取組について調べたことを報告する

3 社会に開かれた教育課程の実施

●地域教材・地域資源の活用

学区域にある豊富な学習資源や、SDGs未来都市に認定されている豊島区の様々な取組を教材とした。身近に存在するものを教材にすることで、児童が課題を自分事として捉え、主体的に学習を進めるとともに、地域に愛着をもつことができるようにした。



巣鴨駅前商店街の方から和菓子作りについて学んだ



毎年、第2・3学年は、地元の巣鴨地蔵通り商店街の中で探検活動を行う



地元の公園について調べる前に「としま緑の防災公園」を活用して公園の役割を学んだ

●外部人材の活用

豊島区役所や地域住民の方をお招きし、話を聞いたり、質問をしたりする機会を設けた。児童の学びをより深めるとともに、地域への関心・意欲を高め主体的に課題に取り組めるようにした。



SDGs未来都市推進課の方から区の施策について伺う



第3学年は大正大学と連携し、ヤゴ救出大作戦を行う



巣鴨地蔵通り商店街の方から、商店街の工夫について伺う

●校内の取組の発信

取組を、学校ホームページや学校だより、学習支援ソフト等を通して、発信した。また、保護者アンケートや学校評価を活用して、GSDGsの活動の改善に役立てた。



毎日暑い日が続いていますが、その分植物もよく育ってきています。今日も2年生がミニトマトとナスの水やり

緑のカーテンの水やりを頑張っている様子等をホームページで発信している



ここ2日は雨天で、肌寒い日が続いております。しかし、植物にとっては恵みの雨で、生き生きとして花を咲かせています。緑のカーテンの朝顔や人権の花のインパチェンスはもろろん、学級園のひまわりやコスモスなど、緑豊かな2学期がスタートしました。

SDGsの取組を常時発信し、保護者や地域の理解を図る



1 目標の設定～GSDGs～

Gyoko's Sustainable Development Goals

体力向上

からだ うご げんき からだ
 ・たくさん 体を動かし、元気な 体をつくろう

こころ からだ けんこう す
 ・心も 体も健康に過ごそう

温かい心

ことば おも ことば
 ・言葉に思いやりをもとう

じぶん ともち あ
 ・自分らしさや友達らしさをみとめ合おう

環境

い もの たいせつ しぜん まも
 ・生き物を大切に、自然を守ろう

ひつよう ぶん たいせつ つか
 ・必要な分だけ大切に使う

SDGsの目標17項目を基に、児童にとって身近なこととして理解を深め実行できるよう、仰高小学校独自の目標として「Gyoko's Sustainable Development Goals」を作成した。

2 学習環境づくり

児童が日々の活動の中でも、SDGsを常に意識できるような環境づくりを行った。



↑それぞれの目標ごとの詳しい説明とともに、自分事として捉え、行動に移すためのアイデアを児童に紹介



↑教室に、17の目標を掲示
児童の発達の段階に応じて、各目標が課題とする世界の現状を児童に分かりやすい言葉で表記



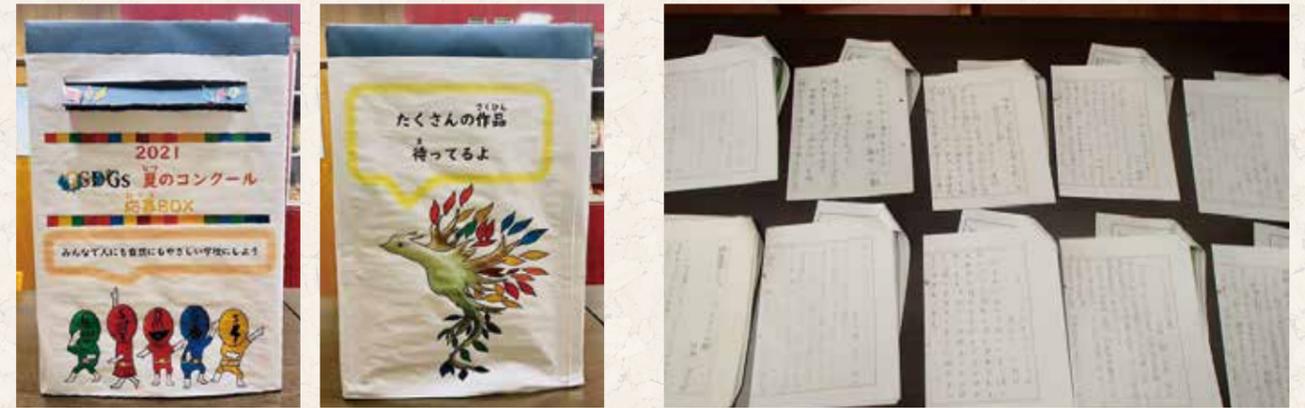
↑学校図書館「ふくろうライブラリー」では、SDGsに関する本を紹介



3 GSDGsの取組

(1) GSDGs夏のコンクールの実施

夏休みの自由課題として、SDGsをテーマとした作品を募集した。



↑夏休みに、作品応募BOXを正面玄関に設置

↑作文の部、創作の部に合わせて24点の作品が応募された



↑豊島区立の全学校で実施した「SDGs週間」の期間に、本校では表彰式を実施

↑童話作家の井上よう子氏、学校図書館スーパーバイザーの藤田利江氏に審査していただき、表彰式では、両氏からの講評を受講



↑「井上よう子特別賞」を受賞した児童2名がそれぞれの作品を朗読



↑受賞者には、特製の賞状とメダル、トロフィーなどの記念品を贈呈

(2) GSDGs キャラクターの作成

昨年度児童から募集して作成した、オリジナルのGSDGsキャラクターを用いて、「自分たちができること」を意識した掲示を作成することで、SDGsを身近に捉え実行する力を育んだ。



↑校庭ビオトープ付近に掲示

↑手洗い場等に掲示

(3) 緑のカーテン活動の実施

地球温暖化対策への意識を高める取組として、あさがおやヘチマの「緑のカーテン」を育てた。全学年で水やりを続け、毎日の成長を楽しみに取り組んだ。



5月26日 第2学年が苗を植えた



6月14日 つるが網を伝い始める



6月28日 つるが伸びてきた



10月19日 花がきれいに咲いた



9月10日 つるの隙間から「緑のカーテン」を通して差し込む光



9月8日 つるが屋上まで届く

(4) ISS活動〈委員会活動〉の実施

各ISS活動 (International Safe School活動) でも、SDGsに関連した自分たちにできる取組を行った。



←代表委員会を中心に、ユニセフ学習会でユニセフについて学び、全校で募金活動を行った

〈環境委員会による人権の花の活動〉



↑5月インパチェンス、コスモス等の種植え



↑土が乾いたら水やり



↑9月 きれいな花が咲いた

全校児童に、一つ一つの花の命を大切に、友達を大切にすることを伝えた

IV 年間指導計画 ～各学年の取組～

次ページからの各学年年間指導計画の実践例



第1学年 生活科

「きれいなはなをさかせたい」



あさがおの種をまき、世話をしながら成長の様子を観察した。「芽が出た!」「ふたばが生えてきた。」など、あさがおの成長や変化に気付くことができた。



第3学年 総合的な学習の時間

「ヤゴ救出大作戦」



学校のプールにいるヤゴを救出し、ヤゴやトンボについて調べ、発表しました。学習を通して環境を守る大切さに気付くことができた。



第5学年 国語科

「みんなが過ごしやすい町へ」



私たちが住むまちにある工夫について調べたことを報告し合った。駅や乗り物に、誰もが過ごしやすい工夫がたくさんあることに気付くことができた。



第2学年 特別活動

「世界がもし100人の村だったら」



「世界を100人の村に縮めると、プラスチックごみを多く出しているのはどの国」、「文字を読めるのは何人」など、様々な視点で世界を知り、わたしたちの「当たり前」が世界の当たり前ではないことに気付くことができた。



第4学年 総合的な学習の時間

「共に生きる～誰もが住みやすい町社会へ～」



一人一人が、ユニバーサルデザインなまちになるように、施設や設備、乗り物など様々なものについて考え、発表した。



第6学年 総合的な学習の時間

「届けよう!服のチカラプロジェクト」



世界には、服がなく困っている友達がたくさんいることを学び、自分たちでできることを話し合った。校内や近くの幼稚園、保育園などにも呼び掛けて子供用の服を集め、難民キャンプに送った。

第1学年

教科等	単元・活動等	17の目標	手だて	教科等	単元・活動等	17の目標	手だて
国語	「うみのかくれんぼ」		①③	体育	「多様な動きをつくる運動遊び」		⑤
					「巣鴨地藏通り商店街持久走」		④
算数	「なかまづくりとかず」		①	特別の教科道徳	「がっこうだいすき」		⑤
					「なかよくね」		④⑤
					「あさがお」		⑤
					「にほんのあそび」		③⑤
					「せかいのこどもたち」		①⑤
生活	「じぶんでできるよ」		③④	特別活動	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」		①③
	「もうすぐ2年生」		③⑤		「安全指導」		②⑤
	「きせつとあそぼう」		③		「避難訓練」		④
	「きれいなはなをさかせたい」		③⑤				
	「生きものとなかよくなるう」		①②				
音楽	「せんりつでよびかけあおう」		⑤	英語活動	「こんにちは Hello, everyone!」		①③
図画工作	「はこでつくったよ」		③		「身近なものを伝えよう I like dogs.」		①③

【主体的・対話的で深い学びの充実】
に向けた手だて

- ①ICTの効果的な活用
- ②課題解決学習の充実
- ③知的好奇心を促す発問・教材の提示
- ④考えを見つめ直す場面の設定
- ⑤視点を明確にした対話場面の設定

第2学年

教科等	単元・活動等	17の目標	手だて	教科等	単元・活動等	17の目標	手だて
国語	「たんぼぼのちえ」		①⑤	図画工作	「ビオトープのひみつ」		③
	「ことばでみちあんない」		③④		体育	「多様な動きをつくる運動遊び」	
	「馬のおもちゃの作り方」		②	「巣鴨地藏通り商店街持久走」			④
算数	「ひき算のしかたを考えよう」		②④	特別の教科道徳	「かえてきたホテル」		①⑤
	「ひっ算のしかたを考えよう」		②④		「おでこのあせ」		④⑤
	「さんかくやしかくの形をしらべよう」		②④		「おせちのひみつ」		③⑤
			「日本のお米、せかいのお米」			③⑤	
生活	「町たんけん」		③⑤	特別活動	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」		①③
	「あそび名人になろう」		①②		「安全指導」		②⑤
	「ぐんぐんそだて みんなのやさい」		②		「避難訓練」		④
	「みどりいっぱい すずしい学校(あさがお)」		②		「世界がもし100人の村だったら」		③
	「えき前花だん にここ大作せん」		①③				
	「生き物はかせになろう」		①				
音楽	「リズムをかさねて楽しもう」		③	英語活動	「こんにちは Hello, everyone!」		①③
				「身近なものを伝えよう I like dogs.」		①③	

【主体的・対話的で深い学びの充実】
に向けた手だて

- ①ICTの効果的な活用
- ②課題解決学習の充実
- ③知的好奇心を促す発問・教材の提示
- ④考えを見つめ直す場面の設定
- ⑤視点を明確にした対話場面の設定

第3学年

教科等	単元・活動等	17の目標	手だて	教科等	単元・活動等	17の目標	手だて
国語	「仕事のくふう、見つけたよ」		①③	体育	「多様な動きをつくる運動」		④
	「ちいちゃんのかげおくり」		④		「毎日の生活と健康」		④
	「すがたをかえる大豆」		③		「巣鴨地蔵通り商店街持久走」		④
	「ありの行列」		③		特別の教科道徳	「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」	
社会	「わたしたちのすむまち」		⑤	「みんながくらしやすい町」			④⑤
	「わたしたちのくらしとまちではたらく人びと」		②③	「ふるしき」			⑤
	「安全な暮らし」		②④	「まわりを見つめて」			③⑤
	「豊島区のうつりかわり」		①	「マサラップ」		①⑤	
算数	「三角形と角」		①	外国語活動	「Hello! あいさつをして友達になろう」		③⑤
	理科	「植物を育てよう」			③⑤	「ALPHABET アルファベットとなかよし」	
「こん虫を調べよう」			③⑤	総合的な学習の時間	「ヤゴ救出大作戦」		③
「風のはたらき」			③		「オリンピック・パラリンピックに参加した国を調べよう」		①②
音楽	「ちいきにつたわる音楽でつながろう」		①	特別活動	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」		①③
図画工作	「土でかく」		①③		「安全指導」		⑤
					「避難訓練」		②⑤

【主体的・対話的で深い学びの充実】に向けた手だて
 ①ICTの効果的な活用 ②課題解決学習の充実 ③知的好奇心を促す発問・教材の提示
 ④考えを見つめ直す場面の設定 ⑤視点を明確にした対話場面の設定

第4学年

教科等	単元・活動等	17の目標	手だて	教科等	単元・活動等	17の目標	手だて
国語	「ランドセルは海をこえて」		①④	図画工作	「ひみつのすみか」		①③
	「ウナギのなぞを追って」		③		体育	「多様な動きをつくる運動」	
社会	「水はどこから」		③⑤	「体の発達・発育」			①④
	「ごみの処理と再利用」		③⑤	「巣鴨地蔵通り商店街持久走」			④
	「水害からくらしを守る」		④⑤	特別の教科道徳		「世界に一つだけの花」	
	「とどけよう命の水」		①③		「『思いやり』って」		③④
「染め物のさかんな新宿区」		①③	「ひとりぼっちのYちゃん」			③④	
「世界とつながる大田区」		①③	「いのちをつなぐ岬」			③④	
算数	「ゆたかな自然を守り生かす八丈島」		③⑤	外国語活動	「みんなちがって、みんないい」		③④
	「垂直、平行と四角形」		①②		「Hello, world. 世界のいろいろなことばであいさつをしよう」		①③
理科	「あたたかくなって」		①④	総合的な学習の時間	「共に生きる～誰もが住みやすい町社会へ～」		①②
	「暑い季節」		①④		「オリンピック・パラリンピックについて調べよう」		①③
	「すすしくなると」		①④	特別活動	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」		①③
	「寒さの中でも」		①④		「安全指導」		②⑤
音楽	「せんりつの重なりを感じ取ろう」		⑤	「避難訓練」		④	

【主体的・対話的で深い学びの充実】に向けた手だて
 ①ICTの効果的な活用 ②課題解決学習の充実 ③知的好奇心を促す発問・教材の提示
 ④考えを見つめ直す場面の設定 ⑤視点を明確にした対話場面の設定

第5学年

教科等	単元・活動等	17の目標	手だて	教科等	単元・活動等	17の目標	手だて
国語	「みんなが過ごしやすい町へ」		①②	家庭	「クッキングはじめの一步」		③
	「固有種が教えてくれること」		④		「暖かく快適に過ごす住まい方」 「暖かく快適に過ごす着方」		④
社会	「これからの食料生産」		①②		「生活を支えるお金と物」		④⑤
	「環境とわたしたちの暮らし」		①②	体育	「体の動きを高める運動」		⑤
	「森林とわたしたちの暮らし」		①②		「心の健康」		④
	「自然災害から人々を守る」		①②		「巣鴨地藏通り商店街持久走」		④
算数	「合同な図形」		①	外国語	「He can bake bread well.」		③
	「正多角形と円周の長さ」		①		特別の教科道徳	「一ふみ十年」	
	「プログラミングを体験しよう！」		①	「だれもが幸せになれる社会を」			④⑤
理科	「種子の発芽と成長」		②	「小さな国際親善大使」			④
	「魚のたんじょう」		①	「マークが伝えるもの」			④
	「台風の接近」		①	総合的な学習の時間		「地球グリーン大作戦 ～仰高ビオトープと環境保護～」	
	「実や種子のでき方」		②		「食品ロスから取り組もう ～SDGsの輪～」		②⑤
	「川と災害」		②		特別活動	「ユニセフ学習会・ ユニセフ募金」	
	「人のたんじょう」		②	「安全指導」			②⑤
音楽	「音の重なりを感じ取ろう」		⑤	「避難訓練」		④	
図画工作	「メッセージを持ち歩く」		①③				
	「海からのおくりもの」		①③				

【主体的・対話的で深い学びの充実】
に向けた手だて

- ①ICTの効果的な活用
- ②課題解決学習の充実
- ③知的好奇心を促す発問・教材の提示
- ④考えを見つめ直す場面の設定
- ⑤視点を明確にした対話場面の設定

第6学年

教科等	単元・活動等	17の目標	手だて	教科等	単元・活動等	17の目標	手だて
国語	「私たちにできること」		②	体育	「体の動きを高める運動」		②
	「みんなで楽しく過ごすために」		④		「病気の予防」		④
社会	「わたしたちの願いと政治のはたらき」		②		「巣鴨地藏通り商店街持久走」		④
	「国際連合と日本の役割」		③	外国語	「We all live on the Earth.」		③
算数	「拡大図と縮図」		②	特別の教科道徳	「世界人権宣言から学ぼう」		③
	「円の面積」		②		「海のゆりかごーアマモの再生」		④
	「プログラミングを体験しよう！」		①		「～コラム～ よりよい世界をみざして」		⑤
理科	「生物の暮らしと環境」		③		「五十五年目の恩返し」		⑤
	「人と環境」		②		「私には夢がある」		⑤
音楽	「音楽で思いを伝えよう」		③	「エルトウルル号 ー友好の始まり」		④	
	「日本や世界の音楽に親しもう」		③⑤	総合的な学習の時間	「私たちのまち 魅力UPプロジェクト」		②
図画工作	「心の植物図鑑」		③		「GSDGsを実行しよう」		④
	「すてきな明かり」		③		「届けよう! 服のチカラプロジェクト」		⑤
家庭	「すずしく快適に過ごす住まい方」 「すずしく快適に過ごす着方と手入れ」		①	「オリンピック・パラリンピック について調べよう」		①	
	「できることを増やしてクッキング」 「こんだてを工夫して」		③	特別活動	「ユニセフ学習会・ ユニセフ募金」		①③
	「クリーン大作戦」		②		「安全指導」		②⑤
	「持続可能な社会を生きる」		⑤		「避難訓練」		④

【主体的・対話的で深い学びの充実】
に向けた手だて

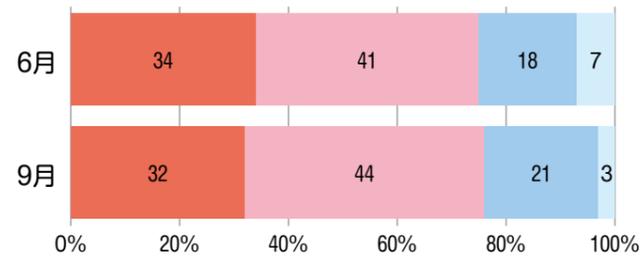
- ①ICTの効果的な活用
- ②課題解決学習の充実
- ③知的好奇心を促す発問・教材の提示
- ④考えを見つめ直す場面の設定
- ⑤視点を明確にした対話場面の設定

V 意識調査

児童の意識調査

(令和3年6月・令和3年9月実施)

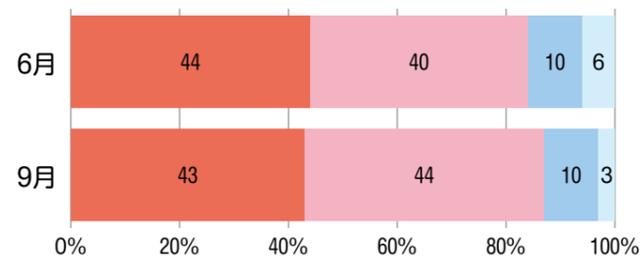
①授業の中で、自分で課題を見つけて解決策を考
えるようにしている。



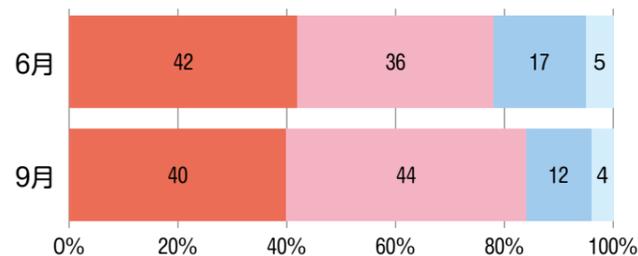
②授業の中で学んだことをいくつかつなぎ合わせ
て、自分なりの考えをもつことができている。



③授業の中で友達や先生と話し合うことで、自分
の考えが広がったり深まったりしている。



④SDGsを達成するために、身近なことで自分に
できることを考えて取り組んでいる。



⑤自分たちの行動は地球の課題を解決することに
つながっていると思う。



⑥他の人と協力して、持続可能な社会をつくら
せたい。



■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない

意識調査の考察

- 課題の解決方法について考え、友達と対話することで共通点や相違点等を比較検討し、自分の考えを広げたり深めたりすることができている。
- 持続可能な社会の達成に向けて身近な課題を自分事として捉える意識が高まった。
- 学習を通して、自分が持続可能な社会の担い手となるという意識と自信が高まるとともに、持続可能な社会を創っていききたいという意思が強めてきている。
- 学習したことを基に、日常生活でSDGsにつながる活動への取組と実践力を高めてきている。

VI 成果と課題

成果

◎主体的・対話的で深い学びの充実について

- 児童にとって身近なものから学習課題を取り上げて設定することで、児童は課題を自分事として捉え、学習や探究活動に意欲的に取り組み、協働的に活動することができた。
- タブレット端末による対話を取り入れたことにより、学級全員の意見や考えを容易に可視化することができ、児童は様々な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。
- 1単位時間の中に自分の考えに対する理由や根拠を明確にした直接的な対話活動を設定したことで、友達との考えとの共通点や相違点に気づき、より深い学びとすることができた。

◎カリキュラム・マネジメントの工夫について

- 社会科や国語科と総合的な学習の時間を横断的な学習過程として設定することで、各教科等で身に付けた資質・能力を生かして探究的な活動に取り組むことができた。
- 校内の自然に着目させ、発達の段階に応じて教科以外の教育活動に日常的に取り組むことができるよう年間計画を見直すとともに、時期や場を設定することでSDGsに対する意識を高めることができた。
- 地域の環境や人材を新たに開拓し、教材分析や教材開発することで、児童の興味・関心を高めるだけでなく、教員自身の授業力向上につながった。

◎社会に開かれた教育課程の実施について

- 校内や地域の学習資源を整理分析し学習教材として取り入れることで、児童にとって、より身近な課題となり、関心を高め、主体的に学習に取り組むことができるようになった。
- 区役所や商店街など、地域人材を活用した学習活動を設定したことで、関心を高めるだけでなく、地域への理解や学びを深め、自分が住んでいる学校や地域への愛着を、更にもつことにつながった。

課題

- 地域教材や人材の活用並びに教材分析を更に進め、児童の実態に合った学習過程を編成するとともに、学期ごとに年間学習計画の見直し改善をしていく必要がある。
- 10年後、20年後の社会を見据え、児童が自分事として課題を捉え、主体的に学習を進めていくことで実践力を高め、持続可能な社会づくりの担い手となることができるよう、教師は、今後も教材分析や教材開発に努め、授業力を高めていく必要がある。



11月8日(月) 豊島区SDGsフェスティバルにて、仰高小学校のSDGsについての取組を発表



御指導いただいた先生方

元聖徳大学大学院教職研究科 教授

廣嶋 憲一郎 先生

麗澤大学大学院学校教育研究科 道德教育専攻 准教授

鈴木 明雄 先生

研究に携わった教職員

○：研究推進委員 ◎：研究推進委員長

校 長	新井 裕	副 校 長	日向野 修二		
1 年 1 組	内藤 陽徳	5 年 1 組	秋元 里菜	養 護	八木 久美子
1 年 2 組	佐藤 花子	5 年 2 組	樋口 隆宏	特別支援	秋山 隆
2 年 1 組	石井 歩	○6 年 1 組	関口 恭平	事 務	砂賀 喜久江
2 年 2 組	長澤 凜奈	◎6 年 2 組	高倉 彩	栄 養 士	加藤 暁子
3 年 1 組	小川 奈緒子	音 楽	青木 結香子	司 書	淀野 由美子
○3 年 2 組	金井 元樹	○図 工	竹内 由希子		
○4 年 1 組	小川 兼矢	日 本 語	執行 久美子		
4 年 2 組	鈴木 健太郎	算数少人数	中川 貴		

VII おわりに

副校長 日向野 修二

本校は令和3年度東京都教育委員会による持続可能な社会づくりに向けた教育推進校として、研究に取り組んで参りました。各教科の目標や内容を見通し、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために教科等横断的な学習を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めて参りました。

今、日本だけでなく世界が国連で示された17の持続可能な開発目標を2030年までに達成することを目指しているところでありますが、まさに子供たちが大人になったときに関わる問題でもあります。そうした様々な諸問題につながる身近な課題に対して、小学生である今から自分事として解決方法について考え、できることに取り組んでいくことで、子供たちの関心や意識は高まってきております。今年度の実践が、教員の授業力向上、子供たちのこれからのSDGsへの実践意欲を更に高め、様々な生き物との共生をかなえる、人にも自然にも優しい学校となっていくことを願っております。

結びになりますが、このような研究の機会を与您いただきました東京都教育委員会、並びに丁寧な御指導を賜りました、廣嶋 憲一郎先生並びに鈴木 明雄先生に心から感謝申し上げます。

仰高小
SDGs
オリジナル
キャラクター



GSDGsレンジャー



緑鳳凰



G丸